

氏名 小 谷 信 行

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2216 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 2 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 若年性関節リウマチ患児における末梢血リンパ球 subsets に関する臨床的研究

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 井上 一 教授 太田善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

JRA 患児を活動型と非活動型に分類し、T 細胞 subsets である IgG-Fc リセプター (FcR) 陽性 T 細胞 (Tr), IgM-FcR 陽性 T 細胞の末梢血における比率を算定し、健康小児と比較検討した。また、メチルプレドニソロン・パルス療法を受けた JRA 患児について、治療前後の Tr, T μ の比率の変動についても検討した。非活動型 JRA 患児における Tr の比率は、活動型 JRA 患児と比較して有意に高率であった。活動型 JRA 患児の T μ /Tr 値は、非活動型 JRA 患児と比較して有意に高値であった。メチルプレドニソロン・パルス療法後の Tr の比率は治療前に比し有意に高率であった。これらの結果から、臨床的に比較的症状の改善された状態では Tr の比率が高率となり、T μ /Tr 値が低下すると考えられた。また、臨床的に JRA の治療効果、予後を検討する上での一つの指標として末梢血 Tr の比率、および T μ /Tr 値が有用であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は若年性関節リウマチ患児における末梢血リンパ球 subsets について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった IgG-Fc レセプター陽性 T 細胞 (Tr) と IgM-Fc レセプター陽性 T 細胞 (T μ) の変動について観察し、本症の非活動状態では Tr の増加があり又 T μ /Tr 値の低下を認め、治療効果とか予後を判定する上で重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。